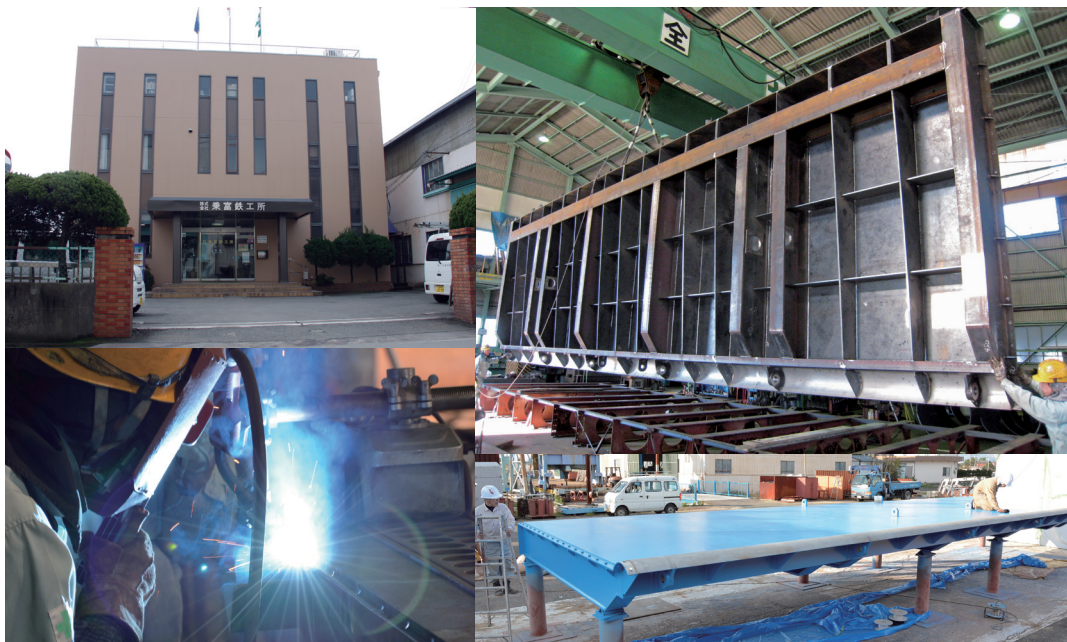


久間がゆく

No.12

株式会社乗富鉄工所

「水門から農業、環境、食品関連機器まで
技術を生かして社会に貢献する乗富『鉄』学」



【写真左上】本社社屋【写真左下】社員が部品を溶接する様子【写真右上】10m以上ある河川用の水門。厚い鉄板をゆがませないように製作するのが非常に難しいという【写真右下】出荷前の水門。塗装をして完成

皆さん、こんにちは。企業支援相談員の久間です。今回紹介する企業は、株式会社乗富鉄工所です。

この会社は、本社工場を三橋町柳河に構え、宮永工場の他、佐賀市諸富町に営業所と佐賀工場があります。

主な事業内容は、河川の水門や排水機場などの水利施設機械や、カントリーエレベーターやごみ処理施設など大型の産業機械、食品製造工場などで使う圧力容器やタンクといった製品品の製作や据え付け工事、保守管理です。

【事業者情報】

- 本社所在地＝柳河 934・4 ☎73・6177
- 資本金＝3000万円
- 売上高＝約11億4000万円(H27年度)
- 代表者＝乗富銀藏
- 従業員＝75人

乗富銀藏社長は「わが社は製缶と溶接が得意。河川で使う水門や農業施設プラントなど、加工に技術を要する、重厚長大な製品をたくさん手掛けてきた実績があります」と胸を張ります。昭和40年代からカントリーエレベーターと呼ばれる農業用施設プラント内のサイロや乾燥機などの製作、設置に携わり、その数は30か所以上。「県内はもちろん関東や東北の各県、海外ではフィリピンまで設置しに行きました」と話します。また、平成2年の市クリーンセンター建設にも携わったそうです。

昭和23(1948)年に、乗富社長の父が乗富製缶工場を創業。佐賀市諸富町の大手食品会社の工場内で、ボイラーや配管の製造や保守を中心に仕事をしていました。「父は、戦前から製缶加工の会社に勤めていたのですが、加工の腕前は社内でも一目置かれてい

たそうです。戦後、自分の城を持つと一念発起して、会社を立ち上げたんですよ」と乗富社長。その後、昭和27年に、佐賀から本社がある現在の場所へ会社を移し、事業を拡大しながら現在に至ります。

今後は、製缶の技術を生かして、環境に優しい製品作りを重点を置きたいという乗富社長。「新しい自社製品を創りたい。そのため、研究開発ができる社員の育成に力を入れたいですね」と語りました。

久間のひとこと
この会社は、毎年夏の風物詩となっている「柳川ソーラーボート大会」にこれまで5度も出場されています。モノづくりを通じて地域社会に貢献する、という乗富「鉄」学を実践されていることの表れだと思っています。

【問】市商工振興課企業誘致・ベンチャー支援係 ☎77・8762